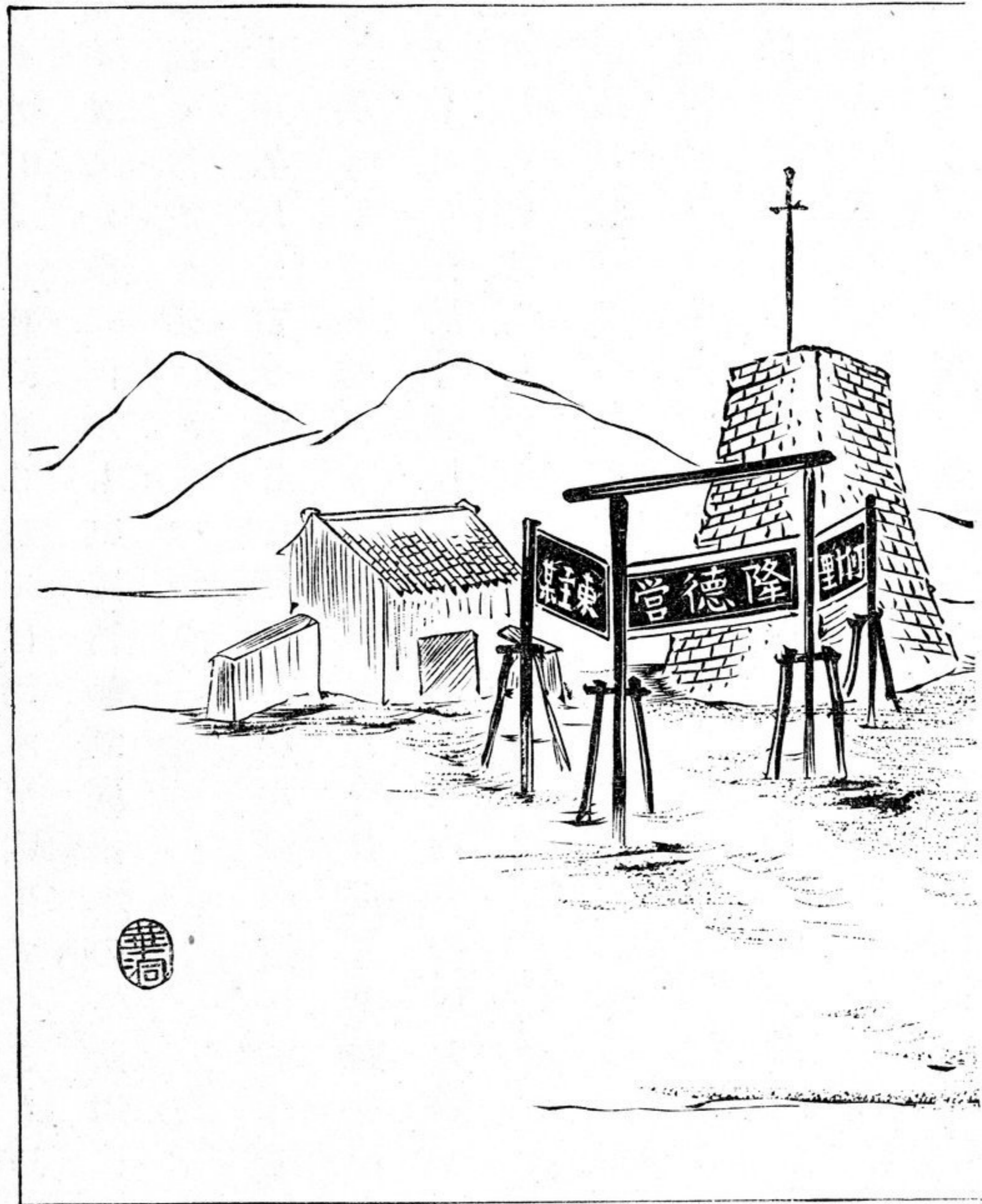


の状を爲すと云ふの至當なるを認む。只農家及駝廠(駝駱宿泊隊商)には間々廣大の圍壁を有する家屋あり。

第四章 長武、安西(甘肅省)間の行程



(房下るす護保を客旅し)

以東は、家屋と穴居の比は、二と八、以西は全く之に反し、穴居民の大部は回民とすと。

市街の外、各部落の家屋を見るに、頗る粗造にして多くは粘土を固めたる土煉瓦と、少許の龜材を用ひ、僅に膝を容るゝに足るの矮屋にて、寧ろ家屋と云はむより、半穴居